

社会との持続的な 共生に向けた取り組み

基本的な考え方

SBIグループは社会の一構成要素として様々なステークホルダーとの調和を図りながら社会の維持・発展に貢献することを目指してきました。その根底にあるのは、儲かるかどうかではなく、「私たちの社会を公正、快適で、環境適合的かつ安全なものにしたい」という信念です。この信念のもと、社会正義に照らして正しいことを事業化し実践するだけでなく、直接的な社会貢献活動にも積極的に取り組み、「強くて尊敬される企業」を目指します。当ページではこれらの方針のもと、社会課題の解決に貢献するべくSBIグループが取り組んでいる主な内容についてご紹介します。

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて

2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなす「持続可能な開発目標（SDGs）」は、国際社会が目指す目標として国内外における関心が一層高まっています。SDGsではグローバル社会が抱える、気候変動や経済的不平等、持続可能な消費と生産、平和といった様々な問題の

解決に向け、行政機関や企業、市民が力を合わせて取り組むことが求められています。

SBIグループは創業以来、様々な社会貢献活動を積極的に進めることで企業の社会的責任を果たし、社会の維持・発展に貢献することを目指してきました。これはSDGsで掲げられている目標に資するものです。SBIグループは今後も、SDGsをはじめとした国際的な規範を尊重し、常にグローバルな視野に立って事業活動を行ってまいります。



主な領域	取り組み事例	社会課題（SDGs）
<p>本業を通じた社会貢献: グローバル社会における課題をしっかりと認識し、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の活性化を促して直接的に地方創生に貢献（→P.20） ・新産業の育成と技術革新への貢献 ・バイオ関連事業を通じた人々の医療・健康ニーズへの貢献 ・新興国における貧困問題の解決に向けた取り組み ・再生可能エネルギーの普及と地域振興 	
<p>直接的な社会貢献: 事業を通じて得た利益を社会に還元するべく直接的な社会貢献活動を行い、社会の維持・発展に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の健康管理に貢献 SBIウェルネスバンクが提携・支援する東京国際クリニックとの提携を通じ、「予防」「治療」「エイジマネジメント」の3領域で、人々の健康管理により積極的に貢献 ・被虐待児童を支援（(公財)SBI子ども希望財団） 詳しくはホームページをご覧ください https://www.sbigroup.co.jp/csr/childwelfare.html ・SBI大学院大学の運営を通じて、日本および世界の経済・社会に活力をもたらす有為な人材の育成に貢献 	
<p>経営基盤の充実: 適正かつ効率的な業務執行によって、「社徳」のある企業を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの強化（→P.38） ・リスクマネジメント（→P.44） ・有為な人材の確保と育成（→P.46） ・環境保全への取り組み（→P.49） 	

本業を通じた社会貢献の取り組み事例

地域金融機関の課題解決を通じた地域社会への貢献



マイナス金利政策の長期化や技術革新による新たな金融サービスの台頭、高齢化社会や人口減少の加速など、地域金融機関を取り巻く経営環境は厳しい状況が続くものと予測されます。SBIグループは、これまでの3年間で地域金融機関と親密な関係を構築してきましたが、今後は更に地域金融機関との価値共創を進化させ、地方創生に貢献するべく、各種システムやATMの共通利用のほか、フィンテックの活用を通じた業務の全国展開を後押しするなど、地域金融機関の収益力強化を図る取り組みを推進することで、地域金融機関を支援し、地域社会に貢献する地方創生プロジェクトを実施しています。SBIグループが有する様々な経営資源を活用することで地域金融機関の資産運用力や商品開発力が高まれば、地域住民の方々の着実な資産形成に貢献することができます。それによって地域住民の消費や投資が活性化すれば地域産業も潤い、地域経済の活性化につながります。このようにSBIグループは地域金融機関の支援を通じ、地方創生に寄与する好循環の実現に貢献していきます。

新産業の育成と技術革新への貢献



SBIグループは経営理念の中で、「新産業クリエイターを目指す」とことを掲げており、この実現に向けて投資事業を行っています。創業以来、ITやバイオテクノロジー、環境エネルギー、フィンテック、AI(人工知能)、ブロックチェーンといった次世代の中核的産業となる成長分野へ集中的に投資を行ってきました。特に、技術進歩が早いIT分野においては、時代やテクノロジーの変遷に応じて主要投資分野を設定したファンドを組成してきました。1990年代における米国のインターネット関連企業への投資を皮切りに、2000年には当時日本最大規模のベンチャーファンド(総額1,505億円)を組成し、多数の国内インターネット関連企業の育成に貢献しました。その後も通信インフラやモバイル、スマートフォンやフィンテック、AI、ブロックチェーンなどの事業を手がける企業への投資・支援を行ってきました。

このように次世代の社会を担う企業を積極的に支援し、新産業の育成や技術革新へ貢献しています。

バイオ関連事業を通じた人々の医療・健康ニーズへの貢献



人々の医療・健康への関心が世界的に高まる中、SBIグループはこれらのニーズに応えるべく、2003年の創業ベンチャーへの投資・支援活動を皮切りに、複数のファンドを組成しバイオテクノロジーに加え、ライフサイエンス、ヘルスケア関連の企業支援や、有望なベンチャー企業への投資・育成を行っています。新型コロナウイルス感染

症拡大に伴い、今後更に関心の高まる分野として、積極的な投資を行っていきます。

また、SBIグループでもバイオ事業を展開しており、これまで最先端のバイオテクノロジーを駆使した新たな医療・医薬品の創出に加え、5-アミノレブリン酸(ALA)を配合した医薬品・健康食品・化粧品を開発・販売し、人々の健康や美容に貢献しています。

新興国における貧困問題の解決に向けて



SBIソーシャルレンディングはクラウドファンディングを通じて、新興国における貧困問題の解決に寄与しています。例えば、同社が運用している「SBISLカンボジア・マイクロファイナンスローンファンド」では、カンボジアの貧困層や低所得者層に小口融資などのマイクロファイナンスサービスを提供する事業に対して融資を行っています。貧困層の多くは、農業や畜産、野菜の販売などで収入を得ていますが、事業拡大のために資金を得たくても、銀行や保険会社などが提供する金融サービスにアクセスできません。このような人々に少額の金融サービスを提供し、所得の向上を支援しています。

また「SBISLカンボジア・モビリティローンファンド」では、借手および借手のカンボジア子会社によるIoT技術を駆使した自動車販売事業に対する融資を行っています。車両にIoT端末を設置することにより、遠隔操作でのエンジン制御を可能にし、効果的な督促手段として代金回収リスクの低減につなげることができます。また、カンボジアは経済成長とともに中古自動車の需要が急速に拡大していますが、整備不良の車両が流通し交通事故の原因となっています。このような課題を解決するため、借手および借手のカンボジア子会社は、高品質な車両検査・整備技術の普及を推進しカンボジアの健全なモビリティ市場の育成に寄与しています。

再生可能エネルギーの普及と地域振興



再生可能エネルギーによる発電が世界的に増加する中、日本においても太陽光や風力に加え、地熱、小水力、バイオマス等、地域資源を有効活用したエネルギーの導入が、今後の地域経済を担う重要な存在として注目されています。現在SBIエナジーでは、太陽光発電のほか、農地で営農を継続しながら発電事業を行うソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)や小水力発電、バイオマス発電等の開発を行っています。このような発電事業を通じて地域リソースと自然エネルギーの活用を促進し、エネルギー自給率の向上や地産地消による持続可能な地域づくりに貢献するとともに、地域経済の活性化に取り組んでいます。